

お茶大での半年

K2690002

慶北大学 イジウォン

私が交換留学を決めた理由は、日本で実際に生活しながら、新しい文化に触れ、専門分野や日本語をより深く学びたいと思ったからです。初めて長期間海外で生活することになり、不安もありましたが、その不安以上に多くの出会いや学びに恵まれた半年間になりました。

留学生活の中で最も印象に残っているのは、人との出会いです。一緒に留学した韓国人の友人たちは、慣れない環境の中で互いに支え合いながら生活できる大切な存在でした。また、日本人学生やさまざまな国から来た留学生とも交流する機会が多く、それぞれ異なる文化や考え方に触れることができました。一緒に授業を受けたり、食事をしたり、旅行に出かけたりした何気ない日常は、私にとってかけがえない思い出です。国籍や文化が違っても、お互いを理解しようとする気持ちがあれば、良い関係を築くことができることを実感しました。

休日には友人たちと日本各地へ旅行にも行きました。東京だけでなく、それぞれの地域には異なる景色や文化があり、実際に訪れることで本やインターネットだけでは分からない日本の魅力を知ることができました。その土地ならではの食べ物を味わい、街を歩き、現地の雰囲気を感じた経験は、とても印象に残っています。このような時間を通して、日本という国をより身近に感じることができました。

大学で受けた授業も、とても印象的でした。特に政治学や国際関係学などの専門科目では、韓国で受けていた授業とは異なる学び方を経験することができました。一つのテーマについてさまざまな視点から考え、学生同士が自由に意見を交換しながら議論を深めていく授業が多くありました。正解を求めるだけではなく、多様な考え方を尊重する姿勢がとても印象的で、私自身も社会や国際問題を以前より広い視野で考えられるようになりました。同じ専門分野でも、国や教育環境によって学び方や考え方が異なることを実感できたことは、交換留学ならではの貴重な経験だったと思います。

また、多くの先生方が留学生一人ひとりに温かく接して下さったことも忘れられません。授業内容だけでなく、大学生活や学習についても親身になって相談に乗ってくださり、質問にも丁寧に答えてくださいました。そのおかげで、慣れない環境でも安心して勉強に取り組むことができ、新しいことにも積極的に挑戦することができました。先生方の支えは、私にとって大きな励みになりました。

半年という短い期間ではありましたが、この交換留学を通して、日本語や専門知識だけでなく、多様な価値観に触れ、新しい視点で物事を考えることの大切さを学びました。そして、多くの人との出会いは、私にとって何より大きな財産になりました。この経験をこれからの大学生活や将来にも生かし、どのような環境でも積極的に学び続け、さまざまな人と協力できる人になりたいと思います。最後に、ご指導くださった先生方、国際教育センターや国際課の皆様、そして支えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

